

第1回第2次岡崎市文化振興推進計画策定委員会会議録

1 日時

平成 27 年 7 月 14 日(火) 午前 10 時 00 分開会 午後 0 時 10 分閉会

2 場所

岡崎市役所 福社会館3階 視聴覚室

3 委員

出席者 清水裕之、榊原悟、団野美由紀、柴田剛太郎、渡辺傳次郎、
梶田美香、仲村悠希、山田高広

欠席者 青木日奈子

4 事務局

文化芸術部 部長 石川啓二、文化総務課 課長 野田元陽、主幹 前島豊、
主幹 竹下正昭、主任主査 梅澤秀一、主任主査 柘植博之、
主事 鈴木みどり、事務業務員主任 加藤大朋

5 傍聴人

なし

6 委員長選出

委員長 清水裕之、職務代理 榊原悟

7 議題

- (1) 第2次岡崎市文化振興推進計画策定の趣旨について
- (2) 市民意識調査の進め方について
- (3) 岡崎市における文化施設のあり方について

8 議題要旨

議題(1) 第2次岡崎市文化振興推進計画策定の趣旨について

事務局 「岡崎市文化振興推進計画(以下、「第1次計画」とする。)」と比べ、3点ほど付け加えたい。3点とは、「ジャズ事業の位置づけ」、いわゆる“劇場法”の理念を取り込んだ「新市民会館(仮称)の位置づけ」及び「美術館系の記載の充実」である。

- 事務局　すでに策定された、「新文化会館基本構想」は 1,500 人と 500 人のホールをセットで新築するという構想。長寿命化のための改修工事へと方針転換している今、この構想はいったん横におき、今ある岡崎市民会館をどのように使うかということを中心に考えてほしい。また、美術館系施設については、収蔵庫の確保が喫緊の課題。常設展、企画展を行うのにふさわしい展示棟も必要であり、「第2次岡崎市文化振興推進計画」(以下、「第2次計画」とする。)に盛り込みたい。ジャズについては、「内田修ジャズコレクション」を活用していく必要がある。聴く機会を増やすことが重要と考える。御意見をいただきたい。
- 委員　美術博物館の計画はまだ完成していない。現在、美術博物館として機能している部分は収蔵庫であり、本館は別に建てる計画だった。本館棟を建てる前段として収蔵棟を考えてもよいのでは。
- 委員　新市民会館(仮称)の運営について、改修後のスタッフの育成が重要な課題。会館へのアクセスも問題点として残る。文化協会加盟団体については、世代交代が問題。
- 委員　利用者のニーズに即対応できる専門スタッフの配置を切望する。美術館の絵画と音楽がコラボレーションしている事例もある。ジャズのイベントについて、参加者がリピーターになる工夫をしてほしい。
- 委員　ジャズストリートが 10 年になるので充実させたい。いつも交通アクセスが問題となる。市民会館、図書館交流プラザ、せきれいホールともに駅から遠い。交通網が整備され、その点が解消されたらよい。
- 事務局　人道橋の計画が進んでいる。東岡崎駅から籠田公園まで歩きやすくなる。回遊性を高め、中心市街地の活性化につなげたいのでご協力願いたい。
- 委員　籠田公園までではなく、市民会館まで整備できないか。
- 事務局　観光客を含めた人の流れは籠田公園からもう少し北までのばしたい。20 年以上先の話になるかと思うが、新文化会館(仮称)の建て替えについて、現行の場所も無い話ではない。
- 委員　第2次計画の中でそれを将来の課題として書けるか。
- 事務局　計画期間外である旨を明記すれば、将来への思いを第2次計画の中に書き込むことは可能。
- 委員　若者のダンスへの関心は高まっている。ダンサーだけでも数は多く、各地の会場を満席にしている。若者だけの世界にならずに、コラボレーションが行われるとよい。フラッシュモブ・ジャズのような形ができるとよいが。
- 委員　若者に浸透しているダンスを、ほかの世代に広げる方法が課題。市民とコラボレーションすることで、施設内だけでなく、外へ向けて活動していくことも重要であり、第2次計画に盛り込みたい。民間の力をかりるのがよい。

- 委員 (フラッシュモブの場合、)ある程度のレベルの高さは必要である。
- 委員 美術博物館では大音量で演奏できる。街中もよいが郊外でも何かコラボレーションを行い、そこに人が集まるという発想があってもよい。
- 委員 やわらかなネットワークみたいなものを構築したい。
- 委員 フラッシュモブは事前宣伝ができず断念した事例もある。プロとアマチュアの線引きも難しい。民間には民間のルールがある。しかし、無関心層にどう働きかけていくかは重要であり、アウトリーチは有効な手段になりうる。またアウトリーチでは、教育委員会との調整など、行政内の横断的な連携も重要。岡崎はアウトリーチの可能性が高いように感じる。
- 委員 拠点施設の運営だけでなく、街中展開に関心が強い。施設の稼働率が高まる状態ばかりではなく、街中活動などで、市民の目に文化が触れている状態をどうつくるかが重要。無関心層が多すぎるので、岡崎ならではの文化活動のあり方と文化の表現方法を考えたい。アウトリーチ活動など、施設を飛び出し、文化活動から公共施設をつくっていく仕組みを考えたい。例えば、民間がメディアを持つような、情報のネットワーク化が重要。
- 委員 屋外パフォーマンスは重要であるが逆効果にならないようにする必要がある。劇場内と比べて難易度が上がる。フランスの事例では、パフォーマンス側にも公共事業の一環であるという認識がある。助成金の制度化や場所の提供など整備の必要がある。「文化」と「芸術」は少し違う。岡崎は芸術面を育んでいくことで、まちの個性がでるのでは。
- 委員 文化的な力を新しいクリエイティブな活動へつなげることが課題。文化施設のスタッフの充実とともに、若いクリエイターや市民がかかわる新しい展開がうまく回る仕組みをどう作るか考えたい。

議題(2) 市民意識調査の進め方について(審議)

- 事務局 「市民意識調査の進め方について」、説明。各委員に個別に依頼し、質問項目を作成する。
- 委員 「どちらでもない」という選択肢をなくしてしまうという手もある。質問項目数は多くすると回収率が下がるため、工夫が必要。
- 委員 「どちらでもない」という選択肢は必要。経年比較をしたい。「どちらでもない」にした理由もほしい。よくわからないのか無関心なのか。クロス分析もすべき。
- 委員 かなり高度な分析もしてほしい。
- 委員 全国的な傾向と比較し、地域性も出してほしい。
- 委員 回答者の中には、芸術家もいるのでは。芸術家には意見聴取するなどしてもよい。岡崎市内にどの程度の人数がいるのか。

- 委員 過去に同アンケートに答えたことがあるが、何のために必要なアンケートかわかりづらかった。意識調査だけなのか、今後意見がどこかに反映されるのか。工夫してほしい。
- 委員 過去2回のアンケートは漠然としすぎているため、経年比較するためには必要であると思うが、新しい3点に特化するというのもよい。
- 委員 インターネット調査も活用できる。20歳以上とせず、若い人からの意見も聴取したい。

議題(3) 岡崎市における文化施設のあり方について

- 事務局 改修工事後の新市民会館(仮称)について説明。シビックセンターの天井対策についても、第2次計画の中で問題提起していきたい。
- 委員 郷土館を閉じられたままにしないでほしい。臥雲辰致^{がうんたっち}の石碑が見えづらくなっている。ガラ紡の歴史などしっかりと伝わるように残すことが大切。
- 委員 せきれいホールは、できるだけ安く使えるようにし、若い人が自由に使えるとよい。アーティストや市民が出会う場所としての仕組みを作ると、市民会館のサービスと区別できる。
- 委員 施設を性格ごとに分けることは賛成である。全部の施設が同じ機能を持つ必要はない。指定管理施設であっても、管理運営するだけでなく、創造コーディネーターを置くとよい。コーディネーターを施設に置き、街に出ていくことを推進することで、魅力ある街づくりにつなげられる施設が増えるとよい。
- 委員 可児市や武豊町の事例をみながら、改修後の新市民会館(仮称)の企画運営についても計画にわかりやすく盛り込めるとよい。
- 委員 市民会館は街の中にある。運営の仕方や人材の配置によっては街中の文化活動の起爆剤になる可能性が高い。芸術に携わる人や団体が街に繰り出すような展開ができるとよい。
- 委員 美術博物館には広いスペースがあるので、それを活用して市民に集まってもらう仕組みを考えたい。
- 委員 市民会館の運営などについては、別途ワーキンググループを設置して議論を深めたい。

午後0時10分 閉会